

もち米をめぐる状況

令和元年 1 2 月

公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構 もち米事業部

目 次

1. 生 産

- (1) 検査実績・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 種子の供給・・・・・・・・・・・・・ 2
- (3) 主産地の状況・・・・・・・・・・・・・ 3

2. 流 通

- (1) 集荷・・・・・・・・・・・・・ 4
- (2) 契約栽培等の販売・・・・・・・・・・・・・ 5
- (3) 販売数量・・・・・・・・・・・・・ 6
- (4) 米加工食品における原料使用状況・・・・・・・・・・・・・ 7
- (5) 米加工食品の生産状況・・・・・・・・・・・・・ 9

3. 加工原材料用米穀の使用状況・・・・・・・・・・・・・ 12

4. 消費

- もちの購入量・・・・・・・・・・・・・ 13

5. 価格

- (1) 生産者価格・・・・・・・・・・・・・ 14
- (2) 販売価格・・・・・・・・・・・・・ 15
- (3) 小売価格・・・・・・・・・・・・・ 16

6. 輸出入

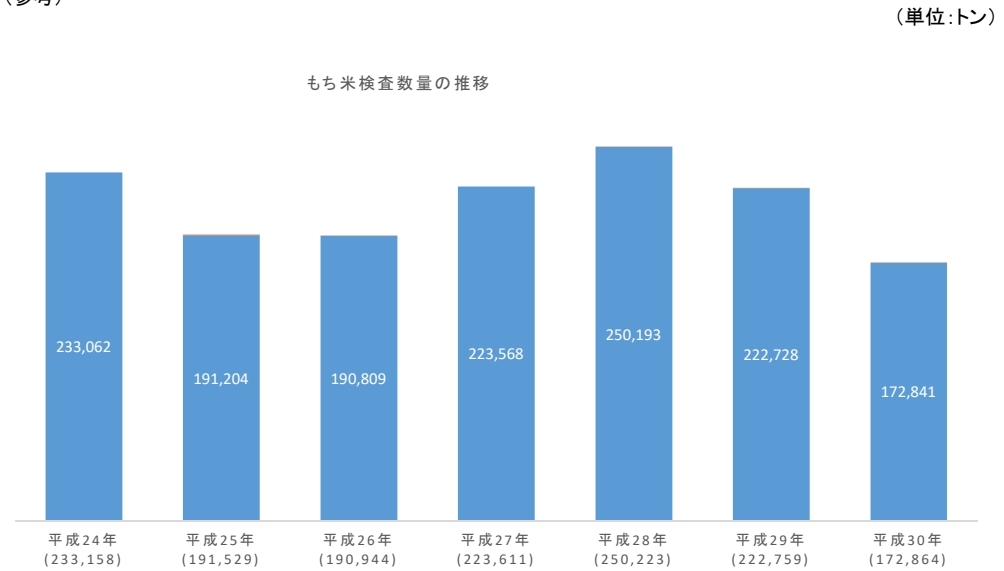
- (1) もち米等の輸入・・・・・・・・・・・・・ 17
- (2) 米・米加工品の輸出・・・・・・・・・・・・・ 19

1. 生産

(1)検査実績

- ① 水稲もち米の検査実績をみると、平成26年産うるち米の価格低迷等により、もち米の作付面積が増えて平成27年産（約224千トン）、平成28年産（約250千トン）と増加傾向にあったが、その後のもち米の在庫増や主食用うるち米へのシフトにより平成29年産では223千トン（対前年産比89%）となっている。
- なお、平成30年産については、平成31年3月31日現在で前年産同期検査数量（213千ト）対比81%の約173千トンとなっている。
- ② 検査等級別にみれば、その比率に大きな変化はなく、1等が約5割、2等が約4割となっている。
- ③ 平成29年産に関して産地銘柄別にみると、平成27年産から平成28年産にかけて増加幅の大きかった、みやこがねもち（宮城県）（28年産/27年産対比：130%）、わたぼうし（新潟県）（同比122%）、こがねもち（同比118%）、ヒメノモチ（同比114%）、きぬのはだ（秋田県）（同比112%）といった品種が、逆に大きく減少している。
- なお、北海道産の風の子もち、はくちょうもち、及びきたゆきもちについては小幅な減少に止まっている。
- ④ もち米の主産地は順位の変動はあるがほぼ固定化しており、上位10道県を合わせた検査数量は、全体の約8割以上を占めている。

(参考)



① 種類別検査数量 (単位:トン)

区 分	28年産 ①	29年産		前年産との比較		30年産		前年産との比較	
		②		②－①	②/①	③		③－②	③/②
もち玄米	250,223	222,759		▲ 27,464	89%	172,864		▲ 49,895	78%
水稲もち玄米	250,193	222,728		▲ 27,465	89%	172,841		▲ 49,887	78%
陸稲もち玄米	30	31		1	103%	23		▲ 8	74%

注:各翌年10月31日現在の確定値である。ただし、30年産については平成31年3月31日現在のものである。(以下、同様。)

資料:農林水産省「農産物検査結果」(以下、同様。)

② 水稲もち玄米の等級別検査数量 (単位:トン)

区 分	28年産 ①	29年産		前年産との比較		30年産		前年産との比較	
		②	比率	②－①	②/①	③	比率	③－②	③/②
水稲もち玄米	250,193	222,728	(100%)	▲ 27,465	89%	172,841	(100%)	▲ 49,887	78%
1 等	131,736	114,985	52%	▲ 16,751	87%	90,632	52%	▲ 24,353	79%
2 等	102,542	93,306	42%	▲ 9,236	91%	69,820	40%	▲ 23,486	75%
3 等	10,112	7,988	4%	▲ 2,124	79%	7,817	5%	▲ 171	98%
規格外	5,803	6,450	3%	647	111%	4,571	3%	▲ 1,879	71%

注:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

③ 水稲もち玄米の品種別検査数量 (単位:トン)

区 分	28年産 ①	29年産		前年産との比較		30年産		前年産との比較	
		②	比率	②－①	②/①	③	比率	③－②	③/②
産地品種銘柄計	240,471	213,148	(100%)	▲ 27,323	89%	165,126	(100%)	▲ 48,022	77%
うち、上位10品種	196,561	172,606	81%	▲ 23,955	88%	132,865	80%	▲ 39,741	77%
ヒヨクモチ	43,934	39,851	19%	▲ 4,083	91%	34,263	21%	▲ 5,588	86%
ヒメノモチ	35,641	28,576	13%	▲ 7,065	80%	21,463	13%	▲ 7,113	75%
こがねもち	19,134	15,005	7%	▲ 4,129	78%	12,235	7%	▲ 2,770	82%
風の子もち	18,648	17,770	8%	▲ 878	95%	14,881	9%	▲ 2,889	84%
たつこもち	18,486	17,705	8%	▲ 781	96%	11,016	7%	▲ 6,689	62%
わたぼうし	17,979	14,852	7%	▲ 3,127	83%	11,396	7%	▲ 3,456	77%
はくちょうもち	13,180	13,116	6%	▲ 64	100%	10,679	6%	▲ 2,437	81%
きぬのはだ	12,018	10,301	5%	▲ 1,717	86%	5,183	3%	▲ 5,118	50%
きたゆきもち	9,436	9,290	4%	▲ 146	98%	7,155	4%	▲ 2,135	77%
みやこがねもち	8,105	6,140	3%	▲ 1,965	76%	4,594	3%	▲ 1,546	75%

注:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

④ 水稲もち玄米の主要県別検査数量 (単位:トン)

区 分	28年産				29年産				30年産			
	①		②		前年産との比較		③		前年産との比較			
	産地	検査数量	産地	検査数量	②－①	②/①	産地	検査数量	③－②	③/②		
全国計		(100%) 250,193		(100%) 222,728	▲ 27,465	89%		(100%) 172,841	▲ 49,887	78%		
順位	1	北海道	44,370	北海道	43,621	▲ 749	98%	北海道	36,131	▲ 7,490	83%	
	2	新 潟	37,043	秋 田	31,705	▲ 1,774	95%	新 潟	25,205	▲ 5,078	83%	
	3	秋 田	33,479	新 潟	30,283	▲ 6,760	82%	佐 賀	21,977	▲ 2,450	90%	
	4	佐 賀	26,325	佐 賀	24,427	▲ 1,898	93%	秋 田	18,745	▲ 12,960	59%	
	5	熊 本	15,265	熊 本	13,779	▲ 1,486	90%	熊 本	10,066	▲ 3,713	73%	
	1～5 計		(65%) 156,482		(63%) 143,815	▲ 12,667	92%		(65%) 112,124	▲ 31,691	78%	
	6	千 葉	13,055	岩 手	10,973	▲ 1,828	86%	岩 手	9,149	▲ 1,824	83%	
	7	山 手	12,801	千 形	10,551	▲ 2,504	81%	千 形	7,354	▲ 3,197	70%	
	8	山 山	11,310	山 形	9,327	▲ 1,983	82%	山 形	7,200	▲ 2,127	77%	
	9	宮 城	8,375	宮 城	6,471	▲ 1,904	77%	宮 城	4,876	▲ 1,595	75%	
	10	富 山	5,759	富 山	4,861	▲ 898	84%	富 山	4,137	▲ 724	85%	
1～10 計		(83%) 207,782		(84%) 185,998	▲ 21,784	90%		(84%) 144,840	▲ 41,158	78%		

注:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

(2) 種子の供給

令和元年産もち米種子の供給は、主産地 9 道県のうち、

- ・岩手県、山形県、新潟県及び熊本県の 4 県が減少、
- ・北海道、宮城県、秋田県、千葉県及び佐賀県の 5 道県がほぼ前年並みか微減の見込みとなっている。

○ 令和元年産もち米種子の供給

主産地	種子の供給見込み	その他
(全体)	令和元年産向けもち米種子の配付量は、前年産(30年産)向け種子にくらべて全国的に減少しているものとみられる。	
北海道	前年産と同程度の見込み。	主食用が約8割、加工用が約2割で、「はくちょうもち」、「風の子もち」、「きたゆきもち」の3品種の作付けが大半を占めている。 コンビニの赤飯・おこわおにぎり向けを中心に評価を得ている。
岩 手	減少する見込み。	県外への流通が主流。 主食用が約7割、包装もち、米菓などの加工向けが約3割。
宮 城	現状維持又は微減となる見込み。	県外への流通が主流。 主食用の比率が大きい、包装餅など多岐に販売。
秋 田	前年産と同程度であり、現状維持又は微減となる見込み。	全国の加工用もち米の約4割程度を占めている。
山 形	前年比1割程度減となっている。	うるち米への作付け変更が要因。主な販売先は首都圏卸等。用途は包装もちが5割程度。
千 葉	ほぼ昨年並み。	加工用米のもち米の取組は、複数年契約があることから昨年並みの見込み。包装餅用が約7割弱、米菓用が約3割弱。
新 潟	前年比1割減となっている。	県内の米菓、包装餅メーカーへの販売が主体。
佐 賀	前年産と同程度の見込み。	加工用もち米の作付けを増加させ、その分主食用もち米を減少させる予定。
熊 本	前年の85％程度となっている。	複数年契約の終了により加工用もち米の減少が見込まれる。

注1: 「種子の供給状況」「その他」の情報は、農林水産省による農協等からの聞き取りによる。

2: 「全体」の情報は、全国生産・出荷団体からの聞き取りによる。

(3) 主産地の状況

①主産地における水稲もち米の作付け動向等

平成27・28年産では、平成26年産主食用うるち米の価格低下に伴い、契約栽培により作付けが固定化している北海道を除くほとんどの主産地で、うるち米からの転換によりもち米の作付けが増加した。

平成29年産では、需給が緩み在庫が増加したこと等を受け多くの産地で作付け抑制が行われ、平成30年産も作付けが減少したところ、令和元年産では、うるち米への転換等が見られ、作付面積は昨年並み又は微減を見込む道県が多い。

産 地	近年の作付状況	令和元年産の作付動向	その他
北海道	・団地化により作付面積がほぼ固定化されており、加工用米も含めた生産体系により、もち米全体の作付面積は維持。	・前年産の作付面積と同程度となる見込み。	・主食向け約8割、加工用途向け約2割。 ・「はくちょうもち」「風の子もち」「きたゆきもち」の3品種の作付けが大半を占めている。 ・コンビニの赤飯・おこわおにぎり向けを中心に評価を得ている。
岩 手	・作付面積は平成29年産まで横ばいで推移していたが、平成30年産はうるち米（銀河のしずく）への転換により減少。	・作付面積は減少見込み。 ・主食用もち米の販売が鈍くなっていることから、主産地ＪＡでは主食用もち米の一部を変更し加工用もち米が増加。 また、主食用もち米からうるち米へ作付転換する地域もあり、主食用もち米の作付面積は減少する見込み。	・県外への流通が主流。 ・主食用が約7割、包装もち、米菓など加工向けが約3割
宮 城	・平成26年産うるち米の米価下落等により、平成27、28年産は作付面積が増加。生産量増加により在庫がタプついため、生産抑制が行われ、平成29、30年産は作付面積が減少。	・需要者の在庫のダブつきは改善されてきているものの、販売進度は鈍いため、作付面積は現状維持又は微減となる見込み。	・県外への流通が主流。 ・主食用への比率が大きいが、包装餅など多岐に販売。 ・「みやこがねもち」が9割以上を占める
秋 田	・平成26年産うるち米の価格下落等により、平成27、28年産は付面積が増加。平成29年産の作付面積は前年と同程度であったが、平成30年産は生産抑制が行われ、作付面積が減少。	・全国的なもち米の過剰在庫は改善されてきているものの、実需者の在庫が消化できていないことから、需給改善にはしばらく時間が掛かる見通し。 ・もち米種子（元年産たつこもち・きぬのはだ）の供給量は、30年産と同程度の見込みだが、作付面積は30年産に比べ減少することが見込まれている。	・平成30年産の加工用米のもち米の取組計画は19,721 ¹⁾ で、全国の加工用米のもち米の約4割程度を占めている。 ・「きぬのはだ」、「たつこもち」が中心。
山 形	・平成26年産うるち米の米価下落等により、平成27、28年産は作付面積が増加。生産量増加により在庫がタプついため、生産抑制が行われ、平成29、30年産は作付面積が減少。	・種子の供給量は前年比1割程度減（前年度対比約92％）となっていることから、作付面積は減少傾向。これは、もち米の前年産の作柄不良や「雪若丸」の登場等に伴い、もち米からうるち米への作付け変更が要因と考えられる。	・主な販売先は首都圏等。用途は包装もちが5割程度。 ・「ヒメノモチ」が8割程度を占める。
千 葉	・平成26年産うるち米の米価下落等により、平成27、28年産は作付面積が増加。生産量増加により在庫がタプついため、生産抑制が行われ、平成29、30年産は作付面積が減少。	・種子の注文状況は、ほぼ昨年並となっているものの、うるち米への転換等による作付けの見合わせも見込まれることから、作付面積は昨年並からやや減少の見込み。	・販売先は新潟県が6割程度、宮城県が2割程度、残りは自県を含む首都圏が主。 ・包装もちが7割弱、米兼用が3割弱となっており、包装もちが近年増加している。 ・「ヒメノモチ」と「ふさのもち」で大半を占める。
新 潟	・平成26年産までの生産抑制の反動から平成27、28年産は作付面積が増加。平成29年産は前年と同程度の作付面積であったが、平成30年産は減少。	・もち米種子の受注数量が前年比1割減となっており、作付面積は減少する見込み。29、30年産での作柄不良や、生産サイドにおけるうるち米混入の懸念が要因と考えられる。	・県内の米菓、包装餅メーカーへの販売が主体。 ・新潟県は、産地交付金で加工用米の多収性品種取組支援（12,000円/10a）及び複数年契約支援（5,000円/10a）を設定。
佐 賀	・平成26年産の作付面積が販売計画を下回ったことに加え、作柄が悪くなったことから、平成27年産は作付けを拡大。平成27年産から平成29年産までは同程度の作付面積で推移していたが、平成30年産は減少。	・平成30年産と同程度の見込みであるが、新規の需要者と契約して加工用米のもち米の作付けを増加させ、その分主食用米のもち米を減少させる予定。	・新潟、愛知、大阪等、県外への流通が主流。 ・「ヒヨクモチ」が9割以上を占める。
熊 本	・作付面積は平成27年産から平成29年産まで横ばいで推移していたが、もち米の需給緩和や加工用米のもち米の複数年契約の終了により、平成30年産は減少。	・種子の注文状況が前年の85％程度となっていることや、複数年契約の終了により加工用米のもち米の減少が見込まれることから、作付面積は減少する見込み。	・「ヒヨクモチ」の需要が多く、もち米の作付面積の大半が「ヒヨクモチ」。

注：農林水産省による農協等からの聞き取り結果。

②主産地における水稲もち米の共済引受面積等

（農業共済の仕組み：水稲）

水稲は、農業保険法に基づく農作物共済事業の対象品目となっており、平成30年産までは旧法（農業災害補償法）により一定規模以上の耕作を行う者が加入が義務づけられていた（「当然加入制」といい、水稲の耕作規模は都府県で20a～40a以上、北海道で30a～1ha以上）。このことから、農業共済組合が把握している水稲もち米の共済引受面積は、概ね実際の作付面が反映されており、検査実績や農林水産省調べによる作付け動向等と傾向が一致している。

なお、農業保険法の施行（平成30年4月1日）により、31年（令和元年）産からは、上記の当然加入制が廃止され、任意加入制とされた。

産地	主要品種	作付（引受）面積（ha）			参考					
					単収（kg/10a）			基準収穫量（t）		
		28年産	29年産	30年産	28年産	29年産	30年産	28年産	29年産	30年産
北海道	はくちょうもち	2,385	2,438	2,455	469	472	400	11,181	11,501	9,814
	風の子もち	3,070	3,027	3,036	514	495	426	15,779	14,974	12,919
	きたゆきもち	1,916	1,884	1,769	466	471	385	8,930	8,878	6,819
	その他	218	241	212	531	461	440	1,158	1,110	932
	計	7,589	7,590	7,472	488	480	408	37,048	36,463	30,484
岩 手	ヒメノモチ	1,979	1,864	1,651	523	533	532	10,355	9,937	8,785
	こがねもち	204	336	307	545	542	478	1,242	1,127	1,467
	もち美人	228	208	145	510	484	538	1,041	1,625	780
	その他	81	74	71	490	491	494	397	363	351
	計	2,492	2,482	2,174	523	526	524	13,035	13,052	11,383
宮 城	みやこがねもち	1,892	1,690	1,320	479	481	482	9,054	8,122	6,365
	ヒメノモチ	41	17	32	449	431	458	185	73	146
	その他	44	27	16	500	472	465	218	127	76
秋 田	計	1,977	1,734	1,368	478	480	482	9,457	8,322	6,587
	きぬのはだ	634	610	469	564	566	568	3,578	3,457	2,662
	たつこもち	411	380	351	548	555	558	2,553	2,105	1,959
	こがねもち	22	26	21	543	554	548	118	145	114
	その他	53	80	74	541	549	552	285	437	407
山 形	計	1,120	1,096	915	557	561	562	6,234	6,144	5,141
	ヒメノモチ	1,565	1,449	1,209	513	512	510	8,023	7,416	6,168
	でわのもち	198	196	186	554	549	531	1,098	1,074	990
	こゆきもち	178	170	154	529	530	531	943	902	817
	その他	44	46	42	545	542	537	238	251	226
千 葉	計	1,985	1,861	1,592	519	518	515	10,302	9,643	8,202
	もち	1,521	1,444	1,196	536	543	542	8,157	7,837	6,487
	計	3,550	3,351	1,196	536	529	542	18,697	17,730	6,487
	こがねもち	2,935	2,620	2,358	467	420	402	13,721	11,000	9,470
	わたぼうし	2,952	3,125	2,625	528	480	438	15,576	15,000	11,500
新 潟	ゆきみのり	558	651	676	529	630	595	2,951	4,105	4,020
	その他	76	97	147	436	410	388	331	400	570
	計	6,522	6,493	5,806	500	470	440	32,579	30,505	25,560
	ヒヨクモチ	5,600	5,203	4,646	503	503	501	28,168	26,171	23,276
	ヒデロモチ	58	57	51	503	503	501	292	287	256
佐 賀	その他	34	18	17	503	503	501	171	91	85
	計	5,692	5,278	4,714	503	503	501	28,631	26,548	23,617
	ヒヨクモチ	2,403	2,246	1,898	516	518	515	12,408	11,637	9,783
	峰の雪もち	79	61	58	471	481	480	373	295	278
	クレナイモチ	28	24	21	419	459	348	117	111	73
熊 本	その他	380	398	297	476	481	470	1,807	1,915	1,395
	計	2,890	2,729	2,274	509	511	507	14,704	13,958	11,529
	主産地合計	21,041	20,167	16,095	503	498	471	105,861	100,419	75,800

資料 農林水産省が行った県農業共済組合等からの聞き取りによる。ただし、北海道はホクレン、新潟県は農協等から農林水産省が行った聞き取りによる。

注1：作付（引受）面積は、水稲共済の引受（加入）面積であり、作付面積20～40アール未満は任意加入。ただし、北海道は農協との出荷契約面積、新潟県は農協等との出荷契約面積。

注2：単収は、「収穫量」÷「作付面積」により算出。ただし、佐賀県については水稲共済の基準単収。

注3：基準収穫量は、水稲共済の引き受けに係る基準収穫量（平年収量）。ただし、北海道はホクレンの集荷実績、新潟県は農協等の出荷実績、佐賀県は「引受（加入）面積」×「基準単収」で算出。

注4：秋田県において、大潟村は農業共済事業を実施していないため、含まない。

2. 流通

(1)集荷

出荷団体では主食用の他に加工用等の集荷も行っているが、ここでは主食用に限って取りまとめたものである。

① 全国出荷団体の水稲もち米(主食用)集荷量は、近年10万トン内外で推移しており、検査数量に占める比率は40％程度となっている。

(参考) 水稲もち米の総検査数量と水稲もち米(主食用)の集荷数量

年産	水稲もち米 総検査数量①	水稲もち米(主食用) 集荷数量②	比 率 ②／①
28	250,193 トン	103,620 トン	41 %
29	222,728 トン	92,441 トン	42 %
30	172,841 トン	76,374 トン	44 %

② 水稲もち米の検査数量上位10道県では、総検査数量に対する水稲もち米(主食用)の集荷数量が多い産地は北海道、佐賀県、岩手県、逆に少ない産地は秋田県、千葉県となっている。

(参考) 主産地における水稲もち米の総検査数量と水稲もち米(主食用)の集荷数量

産 地	水稲もち米の総検査数量 (28～30年産平均) ①	水稲もち米(主食用)の集荷 数量(28～30年産平均) ②	比 率 ②／①
北海道	41,374 トン	29,036 トン	70 %
新 潟	30,844 トン	7,185 トン	23 %
秋 田	27,976 トン	2,445 トン	9 %
佐 賀	24,243 トン	20,128 トン	83 %
熊 本	13,037 トン	4,019 トン	31 %
岩 手	10,974 トン	8,194 トン	75 %
千 葉	10,320 トン	278 トン	3 %
山 形	9,279 トン	1,770 トン	19 %
宮 城	6,574 トン	3,223 トン	49 %
富 山	4,919 トン	1,859 トン	38 %

① もち米(主食用)の集荷数量

(単位:トン)

区 分	28年産 ①	29年産 ②	前年産との比較		30年産 ③	前年産との比較	
			②－①	②/①		③－②	③/②
道府県数	41	42			42		
集荷数量	103,637	92,452	▲ 11,185	89%	76,388	▲ 16,064	83%
水稲もち	103,620	92,441	▲ 11,179	89%	76,374	▲ 16,067	83%
陸稲もち	17	11	▲ 6		13	2	

注：全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

② 水稲もち米(主食用)の主要県別集荷数量

(単位:トン)

区 分		28年産		29年産		前年産との比較		30年産		前年産との比較	
		①		②		②－①	②/①	③		③－②	③/②
		県 名	集荷数量	県 名	集荷数量			県 名	集荷数量		
全 国 計			(100%) 103,620		(100%) 92,441	▲ 11,179	89%		(100%) 76,374	▲ 16,067	83%
順	1	北海道	31,338	北海道	30,617	▲ 721	98%	北海道	25,153	▲ 5,464	82%
	2	佐 賀	21,381	佐 賀	20,561	▲ 820	96%	佐 賀	18,441	▲ 2,120	90%
	3	新 潟	10,005	岩 手	8,065	▲ 1,250	87%	岩 手	7,201	▲ 864	89%
	4	岩 手	9,315	新 潟	6,008	▲ 3,997	60%	新 潟	5,543	▲ 465	92%
	5	宮 城	4,617	熊 本	4,276	▲ 113	97%	熊 本	3,392	▲ 884	79%
位	1～5 計		(74%) 76,656		(75%) 69,527	▲ 7,129	91%		(78%) 59,730	▲ 9,797	86%
	6	熊 本	4,389	宮 城	2,777	▲ 1,840	60%	福 岡	2,404	▲ 76	97%
	7	秋 田	3,222	秋 田	2,708	▲ 514	84%	宮 城	2,274	▲ 503	82%
	8	福 岡	2,535	福 岡	2,480	▲ 55	98%	岐 阜	2,000	▲ 260	88%
	9	富 山	2,347	岐 阜	2,260	33	101%	富 山	1,439	▲ 352	80%
	10	岐 阜	2,227	山 形	1,929	▲ 200	91%	秋 田	1,406	▲ 1,302	52%
	1～10 計		(88%) 91,376		(88%) 81,681	▲ 9,695	89%		(91%) 69,253	▲ 12,428	85%

注：全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

(2) 契約栽培等の販売

○ 契約栽培等の販売の仕組み

もち米(主食用)の販売は、「契約栽培」、「年間契約」、「スポット取引」の3つの方法で行われている。

契約栽培については、品質・用途別の需要に対応し、安定した生産と供給を図るため、平成16年産米から複数年契約(は種前契約栽培)が行われている。

また、年間契約は、もち米の出回り時期に、集荷が確実な数量から既契約数量(契約栽培数量)を差し引いたものが産地銘柄別に提示され、販売契約が行われるものである。

全国出荷団体の年間総取扱数量のうち6～7割が契約栽培と年間契約を合わせた契約栽培等の販売によるものであり、取引は安定したものとなっている。

○ 契約栽培等の販売数量の推移

もち米(主食用)の販売数量が減少しているに伴い契約販売数量も減少しているが、総販売数量に占める契約販売数量の比率は6～7割で推移している。

(参考)

○ 契約栽培等販売数量等の推移 (単位:トン)

米穀年度	契約栽培等販売数量 ① (契約栽培＋年間契約)	総販売数量 ②	①/②
平成26米穀年度	73,529	113,181	65%
平成27米穀年度	74,176	99,145	75%
平成28米穀年度	64,702	97,379	66%
平成29米穀年度	75,317	90,769	83%
平成30米穀年度	60,566	90,833	67%

注： 全国出荷団体資料による。

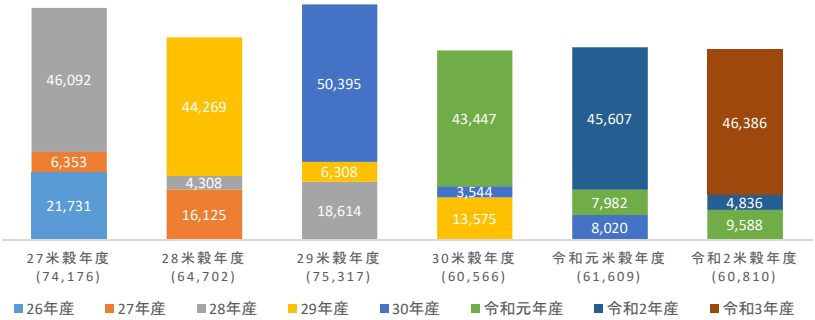
○ 契約栽培等の販売数量 (単位:トン)

米穀年度	年 産	契 約 数 量			契約済数量累計
		契約栽培	年間契約	合 計	
平成27米穀年度	26年産	13,698	8,033	21,731	74,530
	27年産	6,353	－	6,353	55,168
	28年産	46,092	－	46,092	46,092
平成28米穀年度	27年産	7,206	8,919	16,125	71,292
	28年産	4,308	－	4,308	50,400
	29年産	44,269	－	44,269	44,269
平成29米穀年度	28年産	10,989	7,626	18,614	69,014
	29年産	6,308	－	6,308	50,576
	30年産	50,395	－	50,395	50,395
平成30米穀年度	29年産	7,948	5,627	13,575	64,151
	30年産	3,544	－	3,544	53,939
	31/令和元年産	43,447	－	43,447	43,447
令和元米穀年度	30年産	6,797	1,222	8,020	61,959
	令和元年産	7,982	－	7,982	51,429
	令和2年産	45,607	－	45,607	45,607
令和2米穀年度	令和元年産	6,226	3,362	9,588	61,017
	令和2年産	4,836	－	4,836	50,443
	令和3年産	46,386	－	46,386	46,386

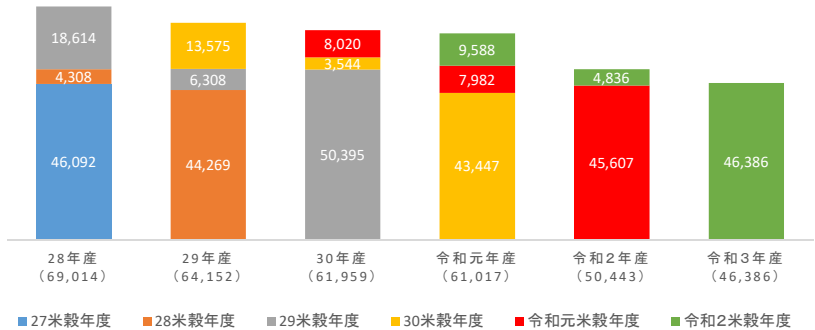
注1： 全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

2： 令和元年産の年間契約数量は、第1回年間契約分までのものである。

もち米(主食用)の契約栽培等販売数量の推移 (米穀年度別)



もち米(主食用)の契約栽培等販売数量の推移 (年産別)



(3) 販売数量

① もち米（主食用）の月別販売数量

もち米の販売数量は季節間の変動が大きく、例年、10月頃から年末にかけての3ヶ月間が販売のピークで、平常月の2～3倍の販売量となっている。

もち米の年間販売数量は、近年、年々減少しているが、平成30米穀年度については前年度とほぼ横ばいの販売数量となった。

なお、令和元米穀年度11月～7月までの販売合計数量は、前米穀年度同期（63,624トン）対比103.4%となっている。

① もち米(主食用)の月別販売数量 (単位:トン)

区 分	平成27米穀年度	平成28米穀年度	平成29米穀年度	平成30米穀年度	令和元米穀年度
11月	12,599	12,448	11,947	11,540	13,633
12月	14,398	13,206	12,420	13,156	12,480
1月	5,646	5,255	4,671	4,457	4,811
2月	6,396	6,510	5,051	5,539	5,464
3月	6,725	7,202	6,557	8,406	7,081
4月	6,366	6,940	5,640	5,246	5,639
5月	5,481	5,024	4,272	4,336	6,304
6月	6,069	6,003	5,665	5,012	4,663
7月	7,372	6,650	5,541	5,932	5,692
8月	7,231	7,024	6,679	6,263	
9月	9,236	9,238	8,530	6,841	
10月	11,624	11,877	13,797	14,103	
合 計	99,145	97,379	90,769	90,833	65,768

注: 全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

② もち米(主食用)の主要県別販売数量 (単位:トン)

区 分		平成27米穀年度		平成28米穀年度		平成29米穀年度		平成30米穀年度		令和元米穀年度	
		県 名	販売数量	県 名	販売数量	県 名	販売数量	県 名	販売数量	県 名	販売数量
全 国 計			(100%) 99,145		(100%) 97,379		(100%) 90,769		(100%) 90,833		(100%) 65,768
順	1	新 潟	34,860	新 潟	28,670	東 京	21,131	新 潟	20,010	新 潟	15,737
	2	東 京	12,159	東 京	19,098	新 潟	21,045	東 京	18,587	東 京	14,451
	3	兵 庫	8,102	北海道	9,363	北海道	7,426	愛 知	5,932	北海道	5,953
	4	愛 知	6,898	愛 知	6,648	愛 知	6,056	北海道	5,116	愛 知	4,052
	5	福 岡	3,159	兵 庫	3,456	兵 庫	3,700	兵 庫	4,121	兵 庫	3,344
	1～5 計		(66%) 65,178		(69%) 67,235		(65%) 59,358		(59%) 53,766		(66%) 43,537
位	6	神奈川	3,079	福 岡	2,463	福 岡	2,952	福 岡	3,075	福 岡	2,289
	7	島 根	2,801	熊 本	2,290	岐 阜	2,418	熊 本	2,744	熊 本	1,854
	8	熊 本	2,705	島 根	2,236	神奈川	2,141	岐 阜	2,655	神奈川	1,543
	9	佐 賀	2,509	岐 阜	2,198	熊 本	2,109	宮 城	2,550	佐 賀	1,298
	10	北海道	2,401	神奈川	2,103	大 阪	1,829	神奈川	2,094	栃 木	1,280
	1～10 計		(79%) 78,673		(81%) 78,525		(78%) 70,807		(74%) 66,884		(79%) 51,801

注1: 全国出荷団体資料により作成、ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

2: 令和元米穀年度の販売数量は平成30年11月～令和元年7月までの販売数量である。

(単位:トン)

(4) 米加工食品における原料使用状況

農林水産省「食品産業動態調査」によると、もち米の加工を行う各事業者が使用する原料は、国内産もち米(民間流通米、加工用米、その他)、外国産もち米、米穀粉、輸入米粉調製品などである。

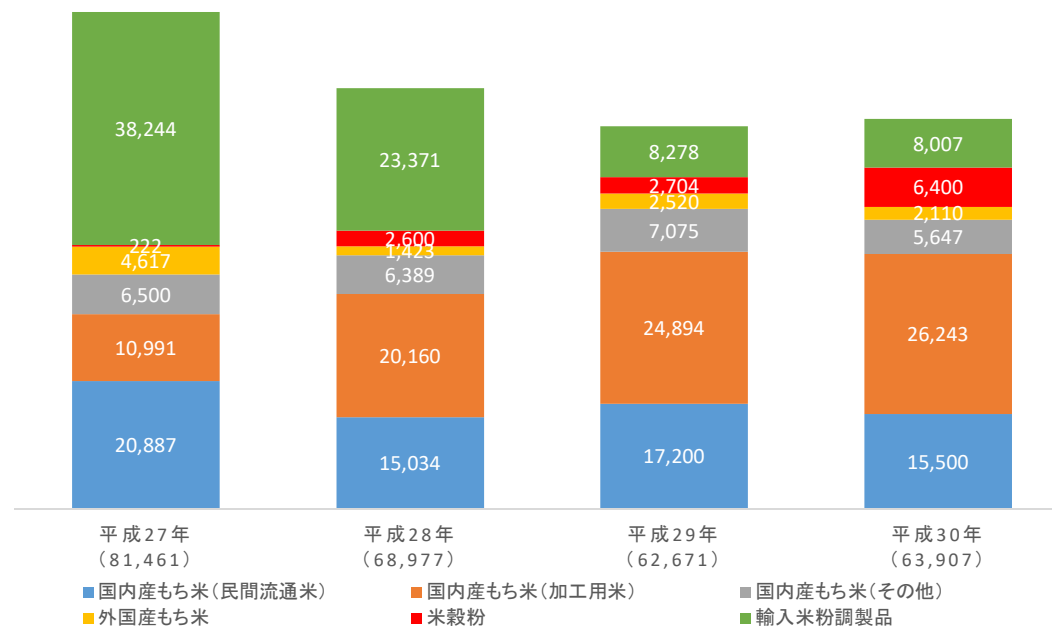
右図の原料使用量(推計)は、農林水産省「食品産業動態調査」で公表された各業種の原料使用実績のうち、もち米等の数量を同調査の調査客体の市場シェアで割り戻し、当該業種全体のもち米等使用数量を推計したものであり、うるち米等は含んでいない。

① 米菓製造業

近年、輸入米粉調製品の使用比率が大幅に減少する一方、加工用もち米は大幅に増加し、平成30年の使用量は3年前の約2倍となり、原料全体の約4割を占めている。

なお、米菓製造業においては、平成30年においてももち米以外の原料として、うるち米等を 92,337トン使用しているとみられる。

① 米菓製造業の原料もち米の使用数量(推計)

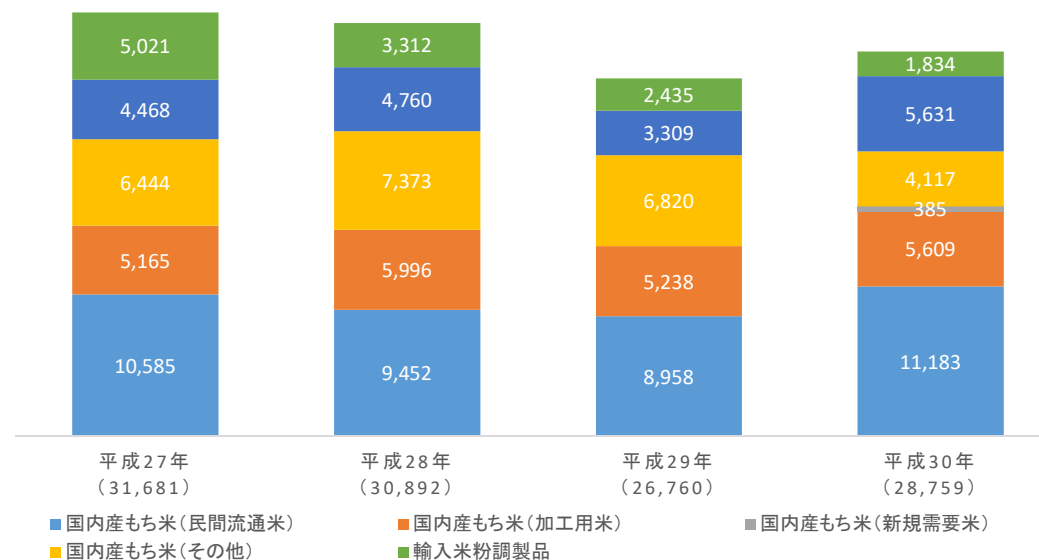


② 米穀粉製造業

民間流通、加工用、新規需要米、その他を合わせた国内産もち米の使用比率は全体の約7割、平成30年では新たにもち米等の新規需要米が使用されており、一方で輸入米粉調製品の比率は大幅に減少している。

なお、米穀粉製造業においては、平成30年においてももち米以外の原料として、うるち米等を 128,776トン使用しているとみられる。

② 米穀粉製造業の原料もち米の使用数量(推計)

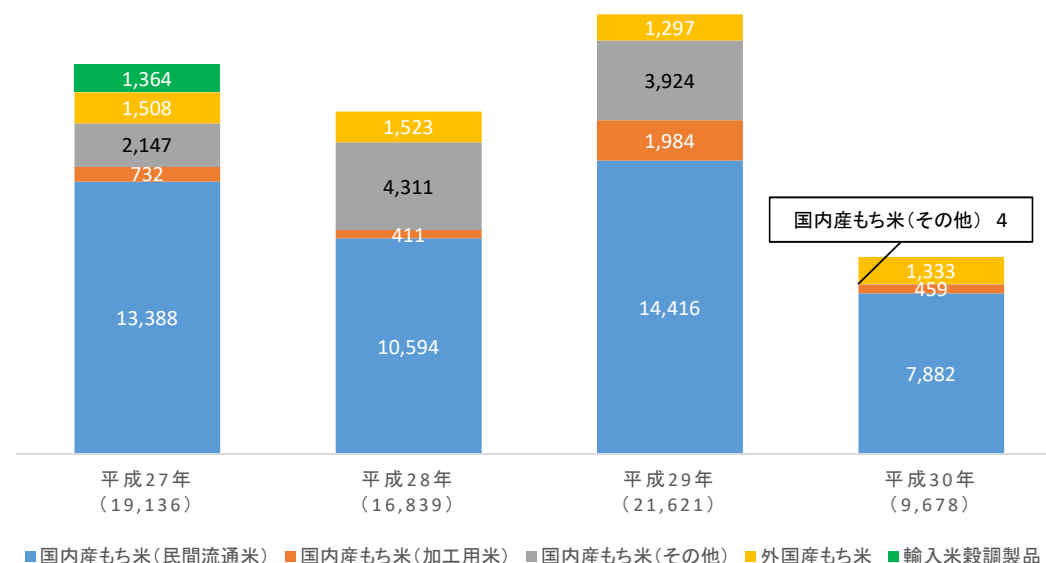


(単位:トン)

③ 加工米飯製造業

平成30年ではもち米等の原料使用数量が前年の5割以下と大きく減少し、特に加工用米の使用数量は前年の2割程度まで落ち込んだ。
一方、平成30年においてもち米以外の原料として、うるち米等は対前年139%、152,230トン使用しているとみられる。

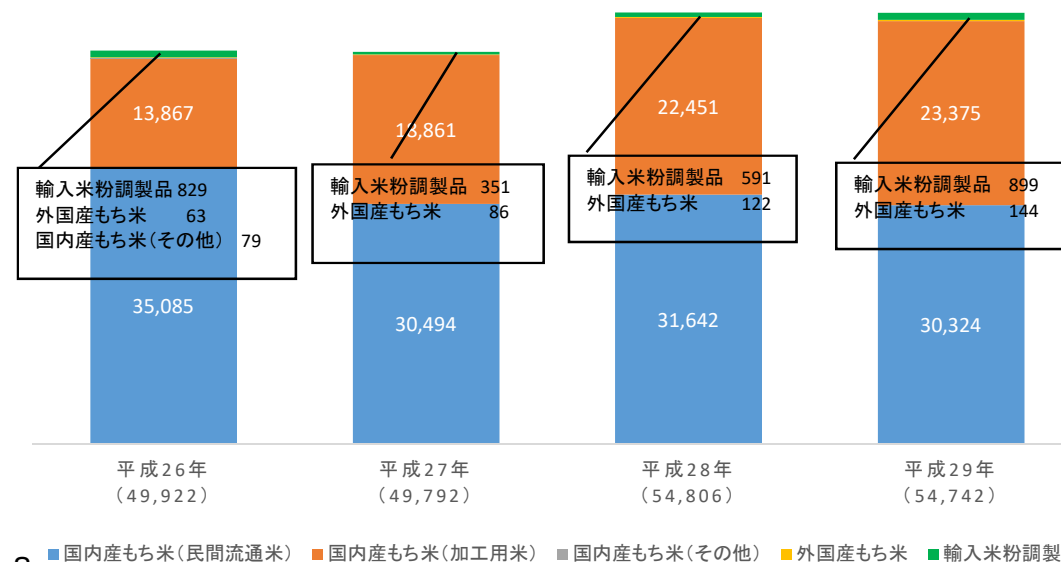
③ 加工米飯製造業の原料もち米の使用数量(推計)



④ 包装もち製造業

民間流通米と加工用米で原料の太宗を占めているが、加工用もち米の使用比率が年々増加し、平成29年では全体の約4割となっている。

④ 包装もち製造業の原料もち米の使用数量(推計)



(単位:トン)

(5) 米加工食品の生産状況

① 米穀粉

生産量全体の約5割を上新粉が占め、残りは、新規米粉(約3割)、もち粉(約1割)、その他となっている。

最近ではもち粉が減少傾向にある一方で、新規米粉が増加しており、米穀粉全体の生産量の底上げに寄与しているが伸び悩み傾向にある。

(参考)

米穀粉の種類

上新粉：精白したうるち米を水洗いして水切りし、しばらく乾燥させてから製粉したもの。

もち粉：もち米を水洗いして水切りし、しばらく乾燥させてから製粉したもの。

寒梅粉：精白したもち米を水洗いし、水漬けし、蒸して「もち」にして、それを白く焼き上げた後、粉碎(製粉)したもの。

落雁粉：もち米を水洗いしてしばらく乾燥させた後、蒸煮することなく焙煎して、製粉したもの。

みじん粉：もち米(又はうるち米)を蒸煮後、これを乾燥し、焙煎して製粉したもの。

だんご粉：うるち米・もち米を精白し、水洗いしてしばらく水に漬けた後、粉碎(製粉)し、乾燥したもの。

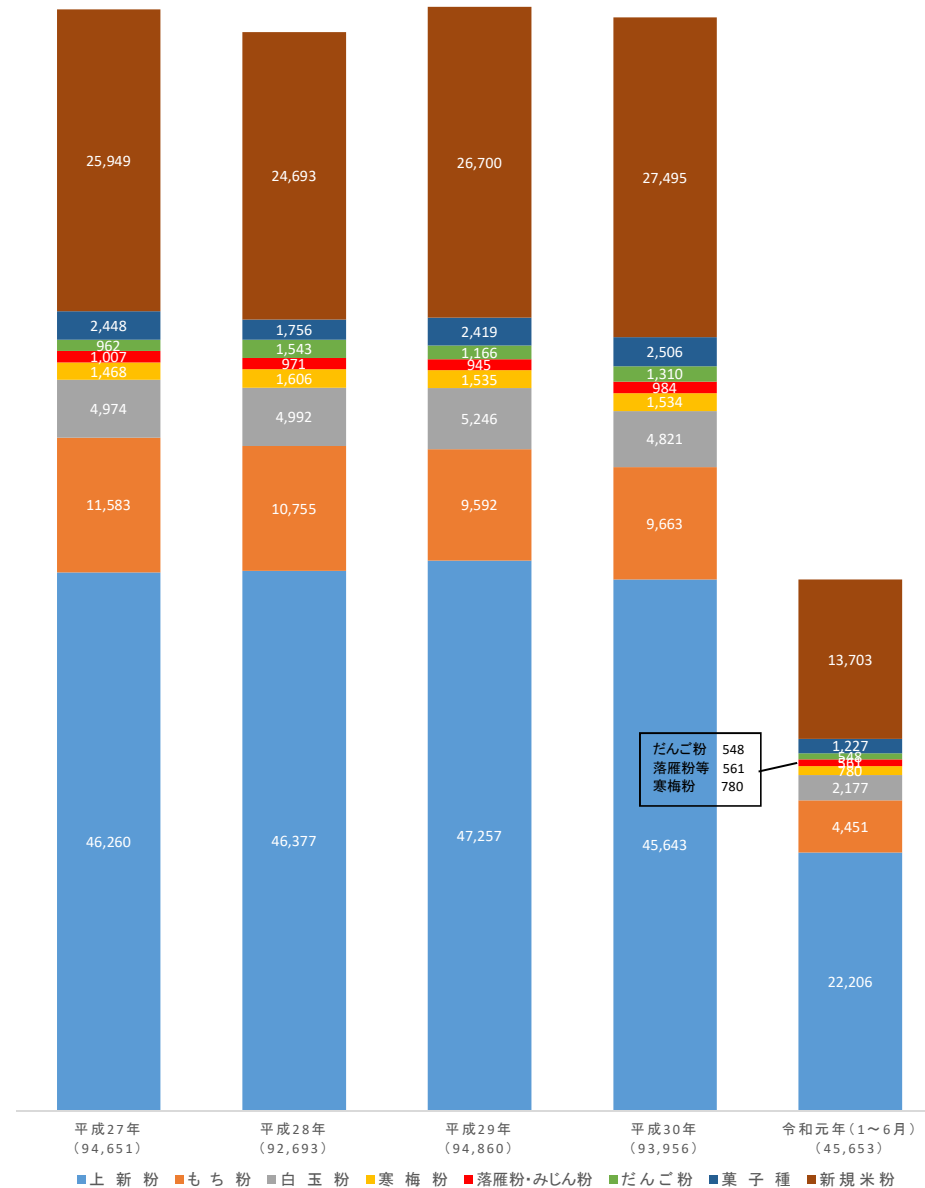
菓子種：道明寺、上南粉などの「粒形」をしたものの総称。

道明寺：もち精米を水に浸し蒸してから乾燥して干飯(ほししい)を作り、それを粗く砕いたもの。

上南粉：もち米をよく洗い、水に浸し蒸してから乾燥させ粉碎し、少しずつ煎りあげたもの。

新規米粉：従来作られてきた米粉の製法とは異なる新たな製法で、上新粉よりも細かい微細粒粉に製粉したもので、従来の米粉食品以外に、米粉パン、米粉麺、ケーキ、ホワイトソース等、新しい分野に米粉を使う目的で開発されたもの。

① 米穀粉の生産数量



(単位:トン)

② 加工米飯

生産量全体の約9割を冷凍米飯(約5割)と無菌包装米飯(約4割)が占めている。

レトルト米飯・チルド米飯が横ばいで推移し、缶詰米飯が減少している中で、無菌包装米飯と冷凍米飯が増加しており、加工米飯全体の生産量は増加している。

(参考)

加工米飯の種類

レトルト米飯：調理されたご飯を、空気が入らない密閉容器に入れ、高温加熱殺菌したもので、常温で6ヶ月～1年保存できる。白ごはんのほか赤飯、炊き込みご飯、おかゆ、雑炊などがある。

無菌包装米飯：無菌設備の下、炊きたてのご飯を密閉容器に入れたもので、常温で6ヶ月保存できる。外見はレトルトご飯に似ているが、熱を加えずに包装するので味も良く普通のご飯とほとんど変わらないと言われている。

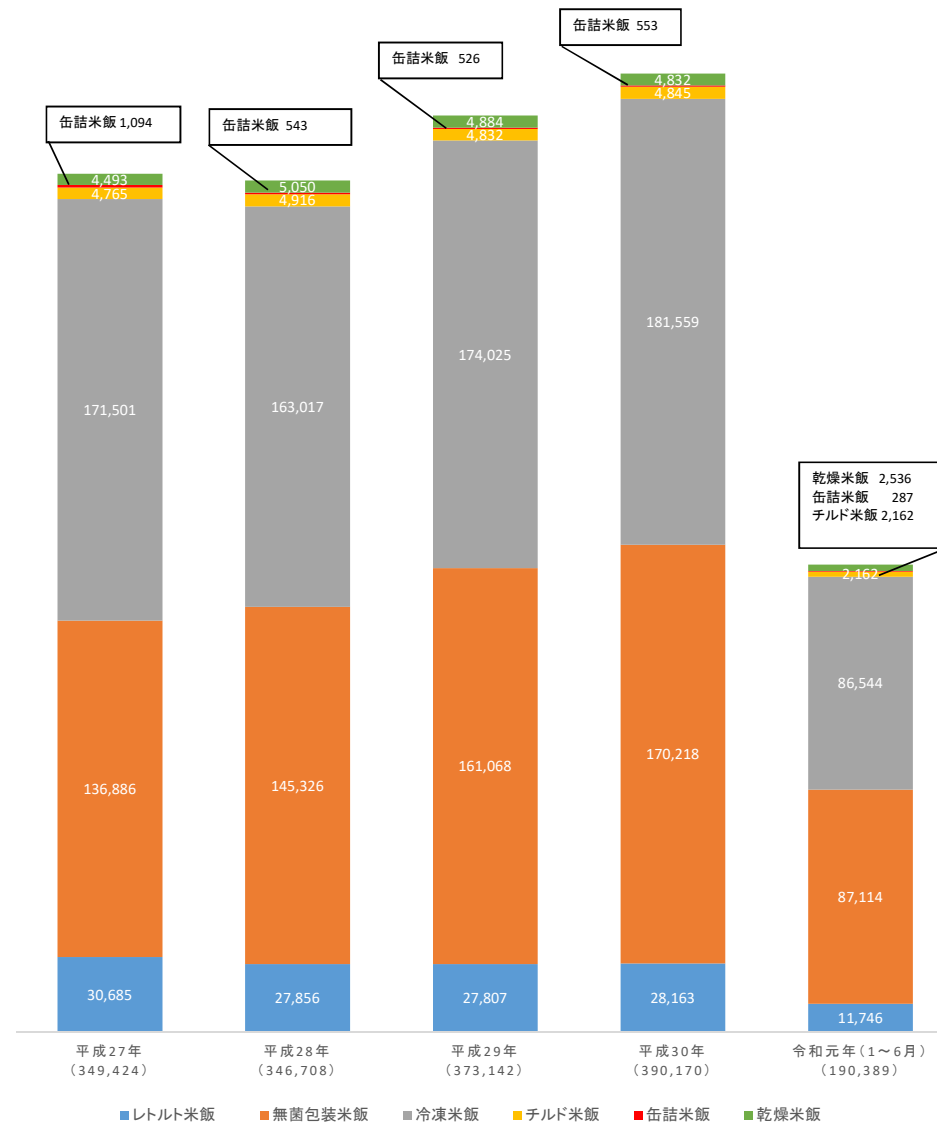
冷凍米飯：調理したご飯を－40℃以下で急速冷凍したもので、－18℃で1年間保存できる。ピラフ、チャーハン、焼きおにぎりなどがあり、家庭での利用が増えている。

チルド米飯：調理したご飯を包装した後殺菌し、利用するまで冷蔵庫で保存するもので、保存期間は2ヶ月くらい。主にデパートなどの食品売場で、出来たてを販売するおこわや赤飯などに利用されている。

缶詰米飯：調理したご飯を缶に詰め、密閉して高温殺菌したもので、3年間保存できる。炊き込みご飯やおかゆなどがあり、非常食としても利用されている。

乾燥米飯：調理したご飯を熱風などで急速乾燥させたもので、常温で3年間保存できる。軽くて持ち運びに便利のため、キャンプや登山、災害用非常食に利用される。

② 加工米飯の生産数量



③ 米菓

米菓生産の約4割があられ、約6割がせんべいである。
最近では、米菓全体の生産量がわずかに増加しているなかで、あられの生産量が伸び悩んでいるのに対し、せんべいの生産量が増加している。
しかしながら、平成30年の実績だけをみれば、あられが対前年1.4%の増加に対し、せんべいが同2.1%の減少であった。

(参考)

米菓の種類

あられ： 原料はもち米で、搗いた餅を冷却して固め、小さく切断して生地にしてから余分な水分を除いた後、焼き窯で焼き上げ、醤油・塩などで味付けをしたもの。小型のものは「あられ」、大型のものは「おかき」、揚げたものは「揚げ餅」と呼ばれる。

せんべい： うち米を搗いた後、すぐにローラーにより薄く延ばしたものを型抜きして乾燥し、これを焼いたり揚げたりして醤油・塩などで味付けをしたもの。

④ 包装もち

包装もち全体の生産量は概ね6万トン弱である。生産の太宗を生切りもちが占めており、最近では板もち、鏡もちの生産が減少してきている。

(参考)

包装もちの種類

各種の包装もちは、餅搗きまでの工程（原料米→異物選別→洗米→浸漬→水切り→蒸米→粗ねり→餅搗き）は同様であるが、その後の検査・検品までの工程の違いにより、以下のとおり分類されている。

板もち：（餅搗き）→ 計量袋詰 → 脱気包装 → 加熱殺菌 → 冷却 →（検査・検品）

殺菌切りもち：（餅搗き）→ 成型 → 冷蔵固化 → 切断 → 真空包装 → 加熱殺菌 → 冷却固化 → 袋詰め →（検査・検品）

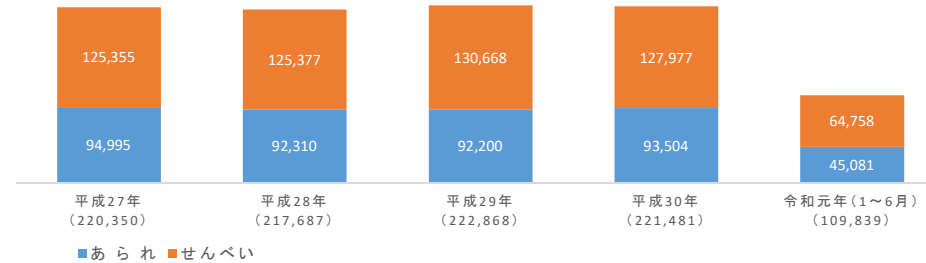
生切り（丸）もち：（餅搗き）→ 成型 → 冷蔵固化 →（切断）→（個包装）→ 袋詰め →（検査・検品）

鏡もち： 基本的には板もちの工程と同様であるが、鏡もちの場合は袋ではなく鏡もち用のプラスチックケースに充填する。

冷凍もち：（餅搗き）→ 成型 → 軽く固化 → 切断 → 急速冷凍 → 計量・包装 →（検査・検品）

(単位:トン)

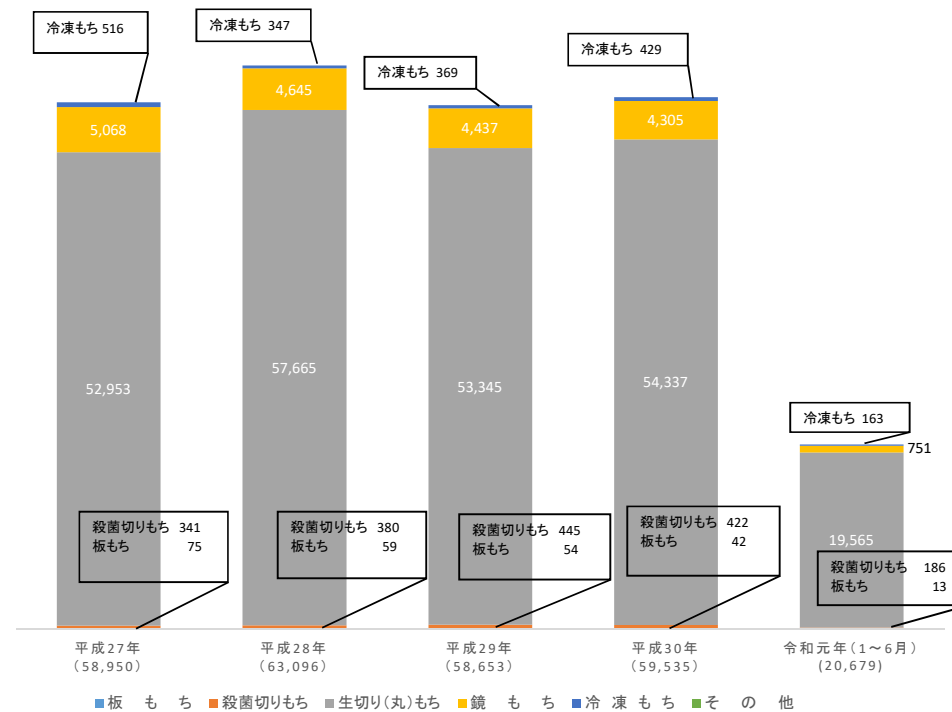
③ 米菓の生産数量



資料:農林水産省「食品産業動態調査」による。

(単位:トン)

④ 包装もちの生産数量



注1:平成30年の包装もちの内訳は業界資料による概数である。

2:ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

資料:農林水産省「食品産業動態調査」による。

3. 加工原材料用米穀の使用状況

- ・ 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成29米穀年度における使用量は対前年と同程度の約97万トン（推計）である。
- ・ 種類別には、うるち米が約78万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約7割、残りの約3割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米である。
- ・ 特定米穀の流通量の減少及び価格の上昇により、味噌を中心に、外国産原料への転換が見られた。

○ 加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移

〈 うるち米 〉

（単位：万トン）

制度 用途	米穀 年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉 調製品	うるち米 合計
清酒用	27	12 (9)	10		3			25 (9)
	28	13 (10)	9		3			25 (10)
	29	12 (10)	9		3			24 (10)
米菓用	27	1	2		7	2	1	13
	28	1	2		6	3	1	12
	29	1	2		4	5	1	13
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	27	5	5					10
	28	5	5					10
	29	5	5					11
味噌用	27		1		7	1		9
	28		1		6	2		9
	29		1		2	7		10
焼酎用 (泡盛含む)	27		1		5	2		8
	28		2		4	2		8
	29		2		3	2		8
米穀粉用	27		1	2	2	2	1	8
	28		1	2	1	3	1	8
	29		1	2	1	2	1	8
その他用	27	1	1		2	1		4
	28	1	1		2	1		4
	29	1	1		1	1		4
合計	27	18	22	2	24	9	2	77
	28	20	21	2	21	11	1	77
	29	19	22	2	15	18	2	78

〈 もち米 〉

（単位：万トン）

制度 用途	米穀 年度	主食用米	加工用米	新規需要米 (米粉用米)	特定米穀	MA米	輸入米粉 調製品	もち米 合計
包装もち用	27	3	2				2	7
	28	3	2				2	8
	29	3	3				1	8
米菓用	27	2	1		1	1	2	6
	28	1	2		1	1	1	6
	29	1	2		1	1	1	6
米穀粉用	27	1					1	3
	28	1	1				1	3
	29	1	1				1	3
加工米飯用 (無菌包装米飯除く)	27	1						1
	28	1						1
	29	1						1
その他用	27						1	2
	28						1	2
	29						1	2
合計	27	7	4		1	1	6	19
	28	6	5		1	2	5	19
	29	6	6		1	2	5	19

注1：清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

2： 加工用米飯は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米を含んでいない。

3： 焼酎は単式蒸留しようちゅうであり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5： 特定米穀とは、水稻収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

資料：農林水産省「マンスリーレポート令和元年10月号・加工原材料用米穀の使用状況（推計）の推移」による。

(単位:円、g)

4. 消費

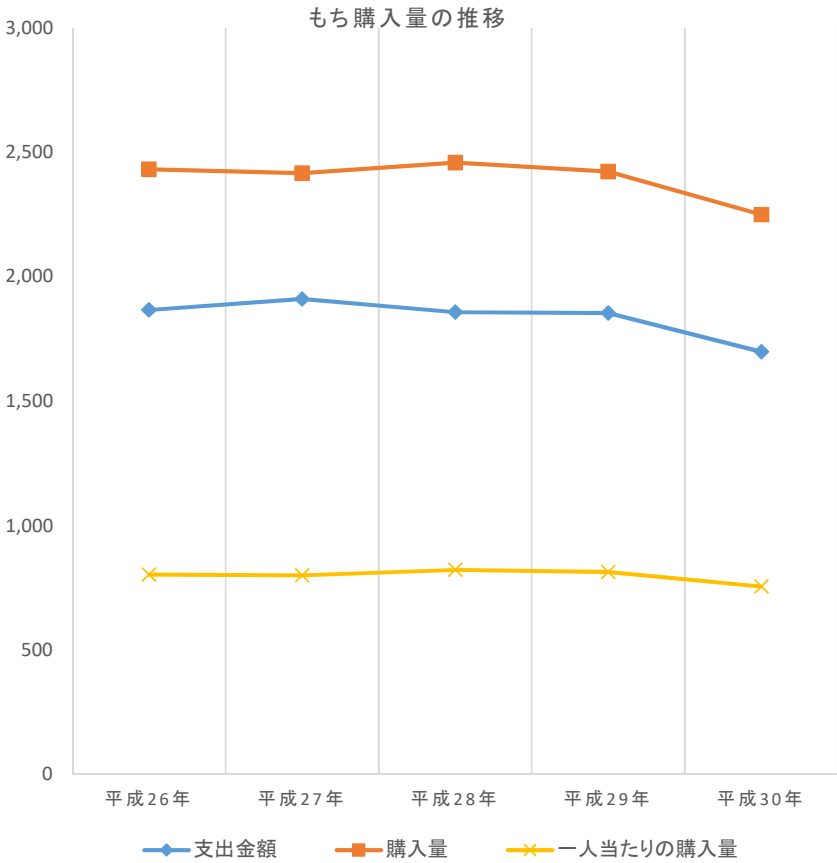
もちの購入量

総務省「家計調査」によれば、平成30年においては、

1) もちの一世帯当たりの年間購入量についてみると、平成26年～平成29年までの2.4kg台から、2.25kg（平成29年対比92.9%）へ

2) 一人当たりの購入量で見ても、平成29年までの800g台から、755g（平成29年対比92.9%）へ

と、それぞれ年間購入量が急減している。



○もちの1世帯当たり年間の支出金額、購入量及び平均価格 (単位:円、g)

区 分	支出金額 ①	購 入 量 ②	平 均 価 格 ①／② (円／100g)	平均世帯人員 ③	一人当たり の購入量 ②／③
平成26年	1,867	2,432	76.7	3.03人	803
平成27年	1,911	2,417	79.1	3.02人	800
平成28年	1,858	2,459	75.6	2.99人	822
平成29年	1,855	2,423	76.5	2.98人	813
平成30年	1,699	2,250	75.5	2.98人	755

注：全国の二人以上世帯の数値である。

資料：総務省「家計調査年報」による。

5. 価格

(1)生産者価格

業界紙の情報によると、全農県本部等からJAに通知される「もち米概算金単価」は、29年産が需給状況等を反映して引き下げとなった産地が多かったが、30年産は、前年産と同額や若干の増額となった産地が多く、一部の産地では28年産単価まで回復したところもある。

元年産については、据え置きないし最大2,000円の上げ幅となっている。

○ JA概算金単価

(単位:円/60kg)

区分	品種	元年産概算金	対前年比	30年産概算金	対前年比	29年産概算金	備考
北海道	水稻もち米	11,500	±0	11,500	±0	11,500	
岩手	ヒメノモチ	12,100	+300	11,800	±0	11,800	
	もち美人	11,600	+300	11,300	±0	11,300	
	こがねもち(A地区)	12,600	+300	12,300	±0	12,300	
宮城	みやこがねもち	13,500	+1100	12,400	±0	12,400	
秋田	水稻もち米	8,000	±0	8,000	+500	7,500	
福島	こがねもち	10,000	+1500	8,500	+500	8,000	
	ヒメノモチ	10,000	+1500	8,500	+500	8,000	
	その他の水稻もち米	8,000	+1500	6,500	+500	6,000	
山形	ヒメノモチ	13,000	±0	13,000	+1,000	12,000	
	その他の水稻もち米	10,500	+1000	9,500	▲500	10,000	
富山	新大正糯	13,000	±0	13,000	±0	13,000	
	その他の水稻もち米	12,200	±0	12,200	±0	12,200	
新潟	こがねもち(契約栽培)	16,000	+1000	15,000	+1,500	13,500	
	こがねもち(契約外)	15,500	+500	15,000	+7,500	7,500	
	わたぼうし(契約栽培)	14,000	+500	13,500	+1,000	12,500	
	わたぼうし(契約外)	13,500	±0	13,500	+6,000	7,500	
福井	水稻もち米	10,690	+10	10,680	+1,000	9,680	
石川	水稻もち米	12,000	+2,000	10,000	▲500	10,500	
茨城	水稻もち米	10,500	±0	10,500	+1,000	9,500	
岐阜	たかやまもち(A地区)	15,000	±0	15,000	▲200	15,200	
佐賀	ヒヨクモチ	12,500	±0	12,500	+1,500	11,000	

注1: 業界紙で報道された全農県本部等からJAに対する概算金単価を整理したものである。

2: 価格は、60kg・1等・包装込み・税込みである。

3: 実際の生産者価格は本概算金から農協手数料を差し引いた額(追加払い金がある場合はこれを加算した額)になると考えられる。

(2)販売価格

もち米取引を安定的に行うため、全国集荷団体ともち米需要者団体との間で、「契約栽培」と「年間契約」が取り交わされている。

当該契約の取引のベースとなる基準価格は、安定取引を継続する観点から、これまで大きな変動はあまり見られなかったが、平成29年産は当時の需給事情等を反映して、複数の産地で引き下げられた。

元年産契約栽培の基準価格は、ごく一部産地で価格が引き上げられたが、ほとんどの産地が平成30年産の水準を維持している。

元年産契約栽培の販売価格は、宮城県、新潟県及び静岡県の産地で令和元年6月に提示された基準価格より0.7%～2.2%程度高くなっている。

○ もち米の販売価格

(単位:円)								
① 契約栽培								
産地	銘柄	基準着地	29年産契約栽培基準価格	30年産契約栽培基準価格	元年産契約栽培基準価格	元年産契約栽培基準価格	元年産契約栽培販売価格	元年産契約栽培販売価格
北海道	はくちようもち	東京	14,300	-	14,300	-	14,300	14,300
	風の子もち	東京	14,300	-	14,300	-	14,300	14,300
	きたゆきもち	東京	14,300	-	14,300	-	14,300	14,300
	きたふくもち	東京	14,300	-	14,300	-	14,300	14,300
岩手	こがねもち(A地区)	東京	16,180	-	16,180	-	16,180	16,180
	ヒメノモチ・もち美人	東京	15,000	-	15,000	-	15,000	15,000
宮城	みやこがね(一般地区)	東京	16,593	-	16,593	-	16,593	↗ 16,960
	みやこがね(特A地区)	東京	16,893	-	16,893	-	16,893	↗ 17,260
秋田	たつこもち・きぬのはだ	東京	15,000	-	15,000	-	15,000	- 15,000
山形	ヒメノモチ	東京	14,100	↗	14,500	-	14,500	- 14,500
新潟	こがねもち	東京	17,800	-	17,800	-	17,800	↗ 18,100
	わたぼうし	東京	15,500	↗	16,000	-	16,000	↗ 16,300
岐阜	たかやまもち	大阪	15,800	-	15,800	-	15,800	- 15,800
静岡	峰の雪もち	(産地在姿)	14,300	-	14,300	-	14,300	↗ 14,400
福岡	ヒヨクモチ	大阪	15,240	-	15,240	-	15,240	- 15,240
佐賀	ヒヨクモチ	大阪	15,300	-	15,300	↗	15,400	- 15,400
熊本	ヒヨクモチ	大阪	14,800	-	14,800	-	14,800	- 14,800
	峰の雪もち	大阪	14,400	-	14,400	-	14,400	- 14,400

注1:生産・集荷団体資料による。

2:建値:60kg、1等、紙袋、基準着地持込価格(税別)である。ただし、静岡県は「置場」である。

3:販売価格は基準価格に対し±5%の幅で出来秋に決定されている。

(単位:円)								
② 年間契約								
産地	銘柄	基準着地	28年産年間契約販売価格	29年産年間契約販売価格	30年産年間契約販売価格	元年産年間契約販売価格	元年産年間契約販売価格	元年産年間契約販売価格
北海道	はくちようもち	東京	14,500	-	14,500	-	14,500	14,500
	風の子もち	東京	14,500	-	14,500	-	14,500	14,500
	きたゆきもち	東京	14,500	-	14,500	-	14,500	14,500
	きたふくもち	東京	14,500	-	14,500	-	14,500	-
岩手	こがねもち(A地区)	東京	-	-	16,180	-	16,180	-
	ヒメノモチ・もち美人	東京	15,306	↘	15,000	-	15,000	-
宮城	みやこがね(一般地区)	東京	17,093	-	-	16,593	-	-
	みやこがね(特A地区)	東京	17,393	-	-	16,893	-	-
秋田	きぬのはだ	東京	15,306	-	-	-	-	-
山形	ヒメノモチ	東京	14,550	-	-	-	-	-
新潟	こがねもち	東京	18,000	-	-	-	-	-
	わたぼうし	東京	16,200	-	-	-	-	-
岐阜	たかやまもち	大阪	-	-	-	15,800	-	15,800
静岡	峰の雪もち	-	-	-	-	-	-	-
福岡	ヒヨクモチ	大阪	-	-	-	-	-	-
佐賀	ヒヨクモチ	大阪	15,300	-	15,300	-	15,300	-
熊本	ヒヨクモチ	大阪	14,800	-	14,800	-	-	-
	峰の雪もち	大阪	-	-	14,400	-	-	-

注1:生産・集荷団体資料による。ただし、令和元年産価格は第1回年間契約分までのものである。

2:建値:60kg、1等、紙袋、基準着地持込価格(税別)である。

(3) 小売価格

① もち米の小売価格

総務省「小売物価統計調査」によると、もち米の小売価格は1kg当たり500円台を中心に400円台から600円台まで幅広く分布しているが、平成30年調査結果を単純平均した小売価格は547円となっており、3年前の平成27年調査の平均価格と比べる横ばいで推移している。

(単位:円/kg)

区 分		平成27年	対前年比	平成28年	対前年比	平成29年	対前年比	平成30年	対前年比
北海道	札幌市	513	1	516	3	513	▲ 3	513	0
青 森	青森市	597	9	614	17	607	▲ 7	585	▲ 22
岩 手	盛岡市	583	11	543	▲ 40	580	37	597	17
宮 城	仙台市	595	▲ 15	599	4	623	24	617	▲ 6
秋 田	秋田市	482	2	498	16	515	17	491	▲ 24
山 形	山形市	587	▲ 1	587	0	610	23	597	▲ 13
福 島	福島市	697	42	695	▲ 2	627	▲ 68	628	1
茨 城	水戸市	527	▲ 4	528	1	570	42	576	6
栃 木	宇都宮市	542	17	543	1	537	▲ 6	509	▲ 28
群 馬	前橋市	501	▲ 4	487	▲ 14	476	▲ 11	487	11
埼 玉	さいたま市	603	▲ 5	623	20	625	2	627	2
千 葉	千葉市	588	3	623	35	598	▲ 25	608	10
東 京	東京都区部	586	1	619	33	616	▲ 3	607	▲ 9
神奈川	横浜市	563	▲ 7	583	20	573	▲ 10	567	▲ 6
山 梨	甲府市	566	1	568	2	568	0	569	1
長 野	長野市	473	▲ 53	476	3	462	▲ 14	484	22
新 潟	新潟市	563	5	561	▲ 2	561	0	563	2
富 山	富山市	547	7	546	▲ 1	540	▲ 6	540	0
石 川	金沢市	545	28	583	38	606	23	605	▲ 1
福 井	福井市	568	▲ 11	565	▲ 3	571	6	573	2
岐 阜	岐阜市	586	15	605	19	603	▲ 2	594	▲ 9
静 岡	静岡市	542	15	564	22	558	▲ 6	549	▲ 9
愛 知	名古屋市	542	▲ 4	538	▲ 4	541	3	545	4
三 重	津市	482	1	485	3	493	8	490	▲ 3
滋 賀	大津市	640	8	663	23	684	21	682	▲ 2
京 都	京都市	584	29	562	▲ 22	563	1	584	21
大 阪	大阪市	559	10	571	12	574	3	566	▲ 8
兵 庫	神戸市	536	▲ 5	571	35	570	▲ 1	572	2
奈 良	奈良市	518	24	506	▲ 12	497	▲ 9	493	▲ 4
和歌山	和歌山市	511	3	515	4	505	▲ 10	506	1
鳥 取	鳥取市	621	41	617	▲ 4	618	1	579	▲ 39
島 根	松江市	581	▲ 2	558	▲ 23	548	▲ 10	564	16
岡 山	岡山市	513	16	508	▲ 5	529	21	502	▲ 27
広 島	広島市	543	6	554	11	557	3	547	▲ 10
山 口	山口市	481	▲ 9	490	9	485	▲ 5	491	6
徳 島	徳島市	504	32	492	▲ 12	466	▲ 26	497	31
香 川	高松市	464	18	462	▲ 2	457	▲ 5	459	2
愛 媛	松山市	511	8	517	6	519	2	510	▲ 9
高 知	高知市	599	4	598	▲ 1	592	▲ 6	605	13
福 岡	福岡市	525	▲ 5	516	▲ 9	491	▲ 25	469	▲ 22
佐 賀	佐賀市	516	5	519	3	521	2	523	2
長 崎	長崎市	458	24	464	6	461	▲ 3	447	▲ 14
熊 本	熊本市	500	0	492	▲ 8	491	▲ 1	509	18
大 分	大分市	487	▲ 2	485	▲ 2	492	7	501	9
宮 崎	宮崎市	517	38	541	24	531	▲ 10	522	▲ 9
鹿児島	鹿児島市	485	▲ 8	482	▲ 3	488	6	492	4
沖 縄	那覇市	582	5	582	0	588	6	586	▲ 2

注：都道府県庁所在都市における国内産もち米（単一原料又は複数原料米、袋入り（1～2kg））の年平均小売価格である。

資料：総務省「小売物価統計調査（動向編）」（2018年次統計表）による。

(参考) ○ 上記のもち米小売価格の単純平均価格		(単位:円/kg)			
27年平均		28年平均		29年平均	
545		549		549	
				547	

② もちの小売価格

総務省「小売物価統計調査」によると、もちの小売価格は1kg袋当たり600～700円台が多く分布しているが、平成30年調査結果を単純平均した価格は710円/1kg袋となっており、3年前の平成27年調査の平均価格と比べ12円（1.7%）値下がりしている。

(単位:円/1kg袋)

区 分		平成27年	対前年比	平成28年	対前年比	平成29年	対前年比	平成30年	対前年比
北海道	札幌市	697	▲ 4	713	16	709	▲ 4	688	▲ 21
青 森	青森市	747	▲ 46	728	▲ 19	743	15	767	24
岩 手	盛岡市	687	46	685	▲ 2	684	▲ 1	679	▲ 5
宮 城	仙台市	603	▲ 67	657	54	591	▲ 66	591	0
秋 田	秋田市	778	35	757	▲ 21	762	5	746	▲ 16
山 形	山形市	603	▲ 1	648	45	688	40	681	▲ 7
福 島	福島市	743	0	748	5	679	▲ 69	682	3
茨 城	水戸市	907	117	915	8	804	▲ 111	793	▲ 11
栃 木	宇都宮市	768	18	794	26	748	▲ 46	783	35
群 馬	前橋市	796	30	790	▲ 6	787	▲ 3	740	▲ 47
埼 玉	さいたま市	762	▲ 2	776	14	767	▲ 9	688	▲ 79
千 葉	千葉市	773	35	775	2	772	▲ 3	765	▲ 7
東 京	東京都区部	713	▲ 17	707	▲ 6	707	0	717	10
神奈川	横浜市	605	▲ 6	619	14	687	68	656	▲ 31
山 梨	甲府市	684	5	677	▲ 7	677	0	692	15
長 野	長野市	657	▲ 113	627	▲ 30	678	51	772	94
新 潟	新潟市	761	▲ 6	778	17	696	▲ 82	722	26
富 山	富山市	666	▲ 48	664	▲ 2	646	▲ 18	637	▲ 9
石 川	金沢市	713	▲ 16	732	19	677	▲ 55	675	▲ 2
福 井	福井市	641	▲ 48	645	4	641	▲ 4	646	5
岐 阜	岐阜市	618	▲ 28	618	0	609	▲ 9	612	3
静 岡	静岡市	742	22	749	7	733	▲ 16	729	▲ 4
愛 知	名古屋市	677	▲ 51	693	16	703	10	704	1
三 重	津市	772	▲ 14	762	▲ 10	767	5	752	▲ 15
滋 賀	大津市	757	45	772	15	761	▲ 11	746	▲ 15
京 都	京都市	695	▲ 43	684	▲ 11	663	▲ 21	673	10
大 阪	大阪市	637	▲ 51	620	▲ 17	629	9	632	3
兵 庫	神戸市	603	▲ 141	606	3	661	55	678	17
奈 良	奈良市	714	▲ 20	718	4	694	▲ 24	653	▲ 41
和歌山	和歌山市	839	▲ 1	773	▲ 66	645	▲ 128	645	0
鳥 取	鳥取市	678	29	678	0	674	▲ 4	673	▲ 1
島 根	松江市	763	74	848	85	842	▲ 6	862	20
岡 山	岡山市	773	5	781	8	825	44	796	▲ 29
広 島	広島市	694	▲ 38	746	52	675	▲ 71	686	11
山 口	山口市	700	▲ 7	700	0	704	4	693	▲ 11
徳 島	徳島市	802	▲ 5	790	▲ 12	788	▲ 2	729	▲ 59
香 川	高松市	799	35	825	26	830	5	825	▲ 5
愛 媛	松山市	736	▲ 20	735	▲ 1	738	3	705	▲ 33
高 知	高知市	687	7	596	▲ 91	591	▲ 5	587	▲ 4
福 岡	福岡市	749	▲ 33	749	0	749	0	749	0
佐 賀	佐賀市	697	0	693	▲ 4	676	▲ 17	723	47
長 崎	長崎市	809	107	719	▲ 90	752	33	797	45
熊 本	熊本市	769	▲ 15	848	79	817	▲ 31	831	14
大 分	大分市	591	▲ 7	591	0	591	0	625	34
宮 崎	宮崎市	768	15	799	31	712	▲ 87	756	44
鹿児島	鹿児島市	833	80	831	▲ 2	800	▲ 31	698	▲ 102
沖 縄	那覇市	396	12	373	▲ 23	368	▲ 5	368	0

注：都道府県庁所在都市における包装生もち（1kg袋入り、普通品）の年平均小売価格である。ただし、那覇市の価格は400g袋入りの価格である。

資料：総務省「小売物価統計調査（動向編）」（2018年次統計表）による。

(参考) ○ 上記のもち小売価格の単純平均価格		(単位:円/1kg袋)			
27年平均		28年平均		29年平均	
722		725		712	
				710	

注：那覇市の価格は400g袋のものであるため平均算出から除いている。

6. 輸出入

(単位:トン)

(1) もち米等の輸入

① もち米

もち米の輸入量は一般輸入米、SBS米合わせて、近年は13千トン程度で推移しており、輸入元はタイ(長粒種)とアメリカ(短粒種)である。

(参考)

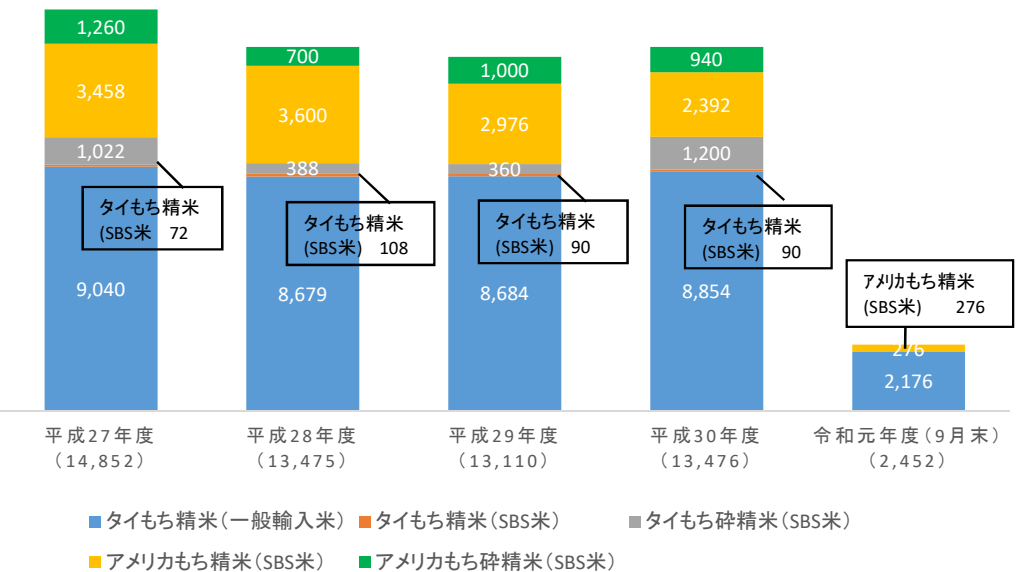
- ・ コメの輸入制度
- ガット・ウルグアイ・ラウンド合意(WTO協定)に基づき、それまで輸入がほとんど行われていなかった米についても、最低限の輸入機会を提供することとし(ミニマム・アクセス米(MA米))、1995年度以降、ミニマム・アクセス数量(現在は77万玄米トン)について、無税の輸入枠(関税割当)を設定。
- MA米については、国産米に極力影響を与えないようにするため、国が一元的に輸入して販売(国家貿易)。
- TPP11協定においては、国家貿易制度を維持し、豪州向け国別枠(関税割当)を設定。
- MA米及びTPP11豪州枠以外の輸入には、高水準の枠外税率を設定。
- 平成30年度の輸入数量は、一般輸入米が701千玄米トン、SBS米が59千実トンである。

(出典：農林水産省「米をめぐる関係資料(令和元年7月)」から。)

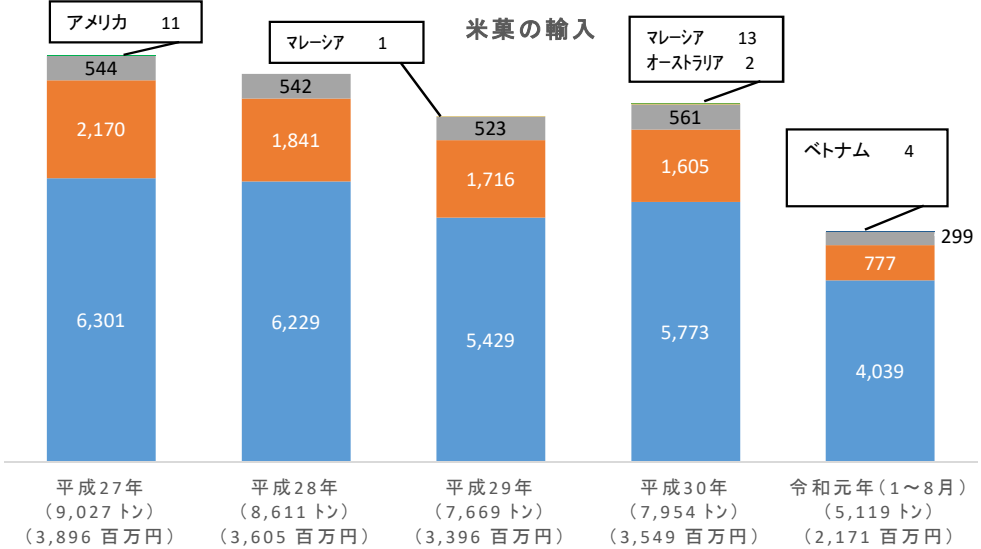
② 米菓

米菓の輸入量は年々減少し、最近では8千トン程度、輸入元は中国、タイ、台湾などであるが中国が全体の約7割を占めている。

もち米の輸入量(MA米)



(単位:トン)



③ 米粉調製品

米粉調製品の輸入量は平成26年以前の8～9万トン水準から大幅に減少し、30年では7万トン程度となっている。タイ、アメリカ、中国からの輸入が太宗を占めている。

(参考) 米粉調製品とは

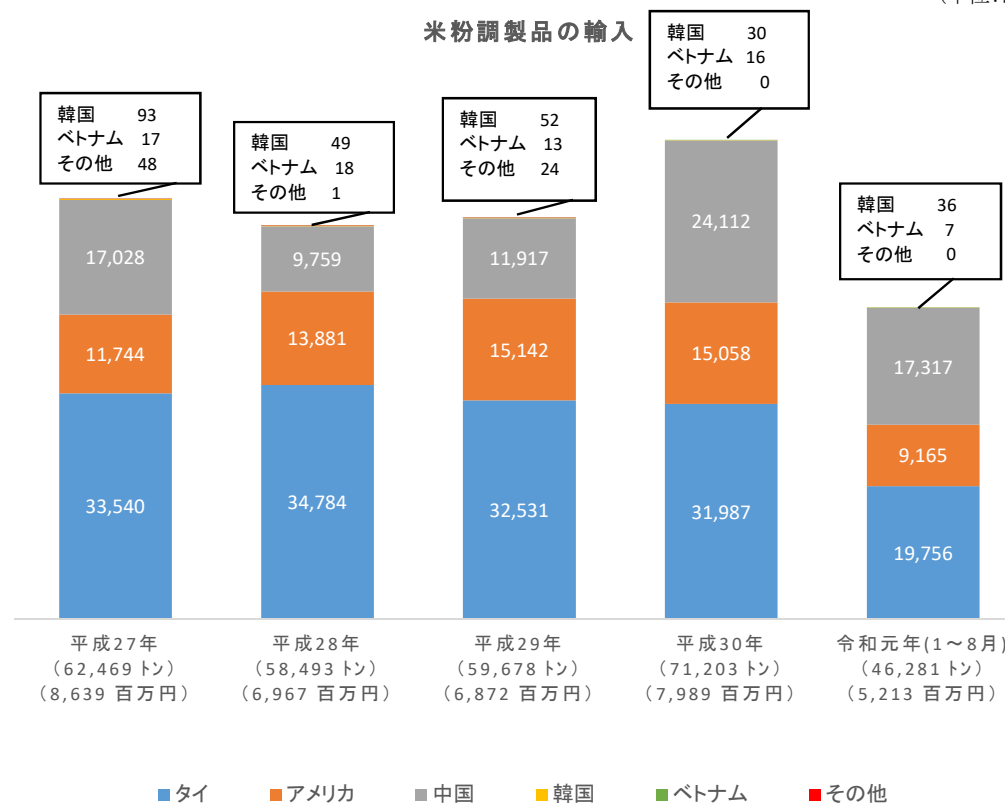
米粉調製品は、米粉に砂糖やでん粉を混入したもので、米菓、穀粉、包装もち等の原料として使用される。

米粉の含有量が85%以下のものは、昭和37年から輸入が自由化されており、関税率は16.0% (無糖)、23.8% (加糖) となっている。

なお、米粉の含有率が85%を超えるものは、米と同様の税率 (341 円/kg) となっている。

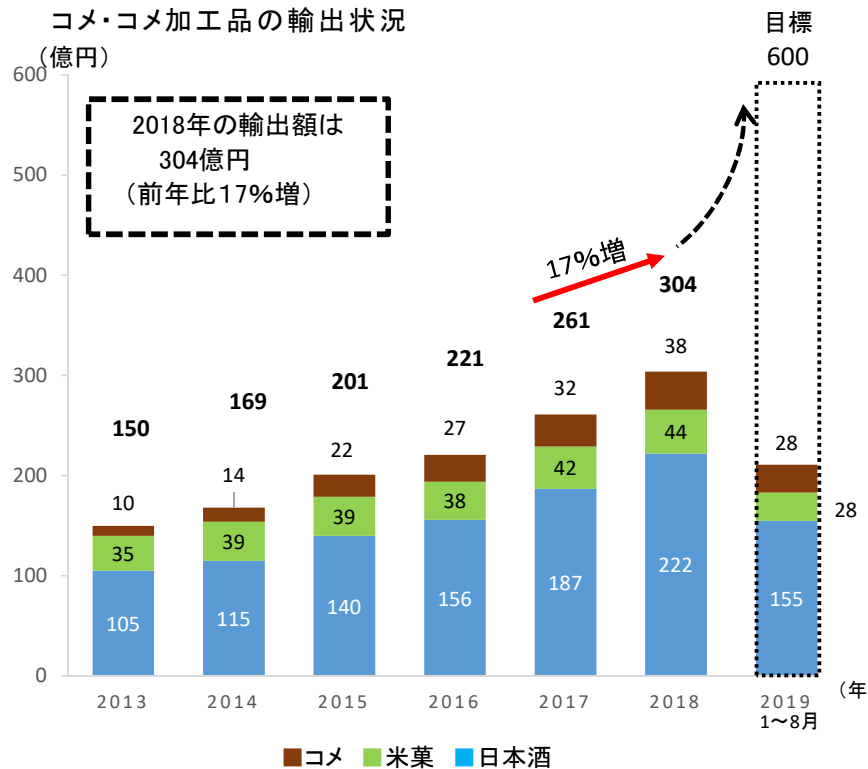
〔 出典：農林水産省「農林水産物 品目別参考資料(平成27年11月)」、
「米粉調製品の輸入実態とその影響(平成13年3月26日)」 〕

(単位:トン)



(2) 米・米加工品の輸出

- ・「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」(平成25年8月決定)の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年(令和2年)までに600億円とすることが決定。
- ・2020年(令和2年)の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」(平成28年8月決定)において、2019年(令和元年)に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- ・2018年の輸出額は、304億円(前年比17%増)

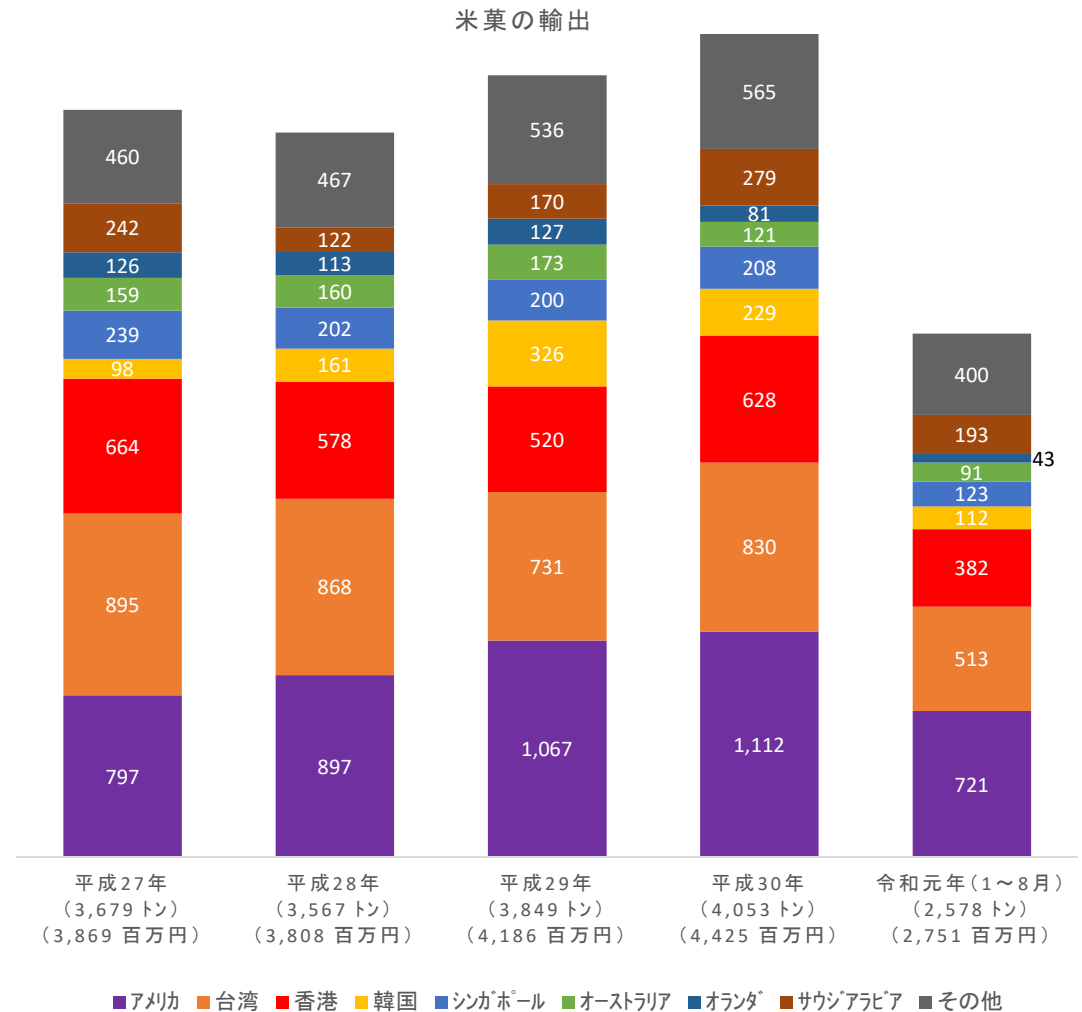


(出典：農林水産省「米に関するマンスリーレポート」(令和元年10月号)による。)

○ 米菓の輸出

米菓の輸出量は4万トン程度で推移している。東南アジア、欧米、中東、北南米と世界各国に輸出されているが、最近ではアメリカ向けが大幅に増加している。

(単位:トン)



(出典：財務省「貿易統計」(2019年8月までのデータ)による。)